
我天下無敵の聖飛天

神の手

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

我天下無敵の聖飛天

【Nコード】

N0119B

【作者名】

神の手

【あらすじ】

この物語はヤンキーが構成する話です

第1話まじめに

俺の名はたつや

俺は喧嘩に負けたことがない中学で背中に堕天使をいれ族の頭になり単車にまたがり狂い走ってた。

でも今日から俺は高校生だ。

なぜかバカな俺だが高校は中の上に入れた髪も黒に戻しまじめに行くことを決意した。

俺は1ー3組になった教室に入ると女の子の集団が話かけてきた。

「おはようたつや君」

「おはよう」

（ふうーあいさつめんどいなあ）たつやは席についた先生A

「おはようみんな席につけよ」先生A

「最近ここらへんで恐喝が多発しているみんなも気をつけるようにな」

生徒一同

「はい」

授業が始まりそして下校時間を迎えた女子多数

「たつや君一緒に帰ってくれない？」

たつや

「なんで俺が」

「男子がいたほうが安全じゃない」

「ほかの奴にたのめよ」

「いいじゃない私たちと帰れるのめったにないんだからたつや君女の子と付き合った事ないでしょう？いいでしょ家も近くじゃん」

「わかったよ」（なんで俺が）たつやのまわりはいつも女ばっかだった。

たつやは中学の時はモテモテだった。

たつや達は帰る途中に・・・高校生の不良6人囲まれた。

不良

「おい！怪我しなくなったら金出しな」
女の子達

「た、たつや君どうしよう」

女の子達はたつやが勝てると思ってなかった。

たつや

「てめら誰に喧嘩売ってんだ」

不良

「お前だよ殺すよ」

不良達は笑いながらゆった

たつや

「てめら死んだよ」

たつやも笑いながらゆった

女の子達

「た、たつや君やばいよ死んじやうよ」

もめてるうちに10台の族車がたつやの前に止まった。族

「あれ？たつやさんじゃないっすか」

たつや

「あん！お前達たしか和也のこの」

「ひさしぶりですどうかしたんですか？」

族はバイクをおり頭をさげた。

不良達は固まっていた。

たつや

「こいつらが俺から金をたかろうとしてただけだ」

族

「なに！てめら誰から金たかろうとしてんだ！殺すぞ」

不良

「げ、この人たち夜叉王の人達だすいません許してください」

族

「あん！それだけで許してもらえと思ってんのか」

たつや

「ゆるしてやれよ俺の事しなかったんだし」

族

「いやおれらがこいつら殺して年少いつてきますよ」
女の子達は怯えていた。

不良

「かんべんしてくださいあのその人は何者なんですか？」

族

「この人は中3で全国制覇したたつやさんだ」

不良

「あ、あの爆攻天のたつやさんだったなんて本当にすみませんでした」

たつや

「もう許してやれって」

族

「でも」

たつや

「俺が許せってゆってんだぞ」

族

「わかりましたおまえら次からあいさつだわかったな」

不良

「はい」

たつや

「おまえらか俺の高校で恐喝してるの？」

不良

「そうですすいませでした」

たつや

「おまえらもう俺の高校に手をだすなよ」

不良

「はい」

たつや

「よしみんな散れ」

族&不良

「はい」

族

「またなんかあったらゆってください飛んできますんで」
たつや

「おう！おまえらありがとなじゃあな」
族達はさっていった。

たつや

「君たちこのことは学校にはゆっちゃだめだよ」
女の子達

「は、はい」

たつや

「じゃあ帰ろっかおくってくよ」

女の子達

「あ、ありがとう」

こうしてたつやの高校生活は始まった。

第2話正体

たつや

「もうこんな時間が早く学校行かないと。昨日は大変だったな」
学校にいき教室に入ると女の子達

「たつや君おはよう・・・昨日はありがとう」

たつや

「いいよ。昨日の事はみんなにゆってないよね？」

女の子達

「うん」

キンコーンカンコーン

授業が始まった。

放課後

男子生徒達

「おまえなんか女子にモテモテじゃない？」

たつや

「そうでもないよ」

男子生徒達

「まあ俺は中学の時は結構モテただけだなヤンチャしてたから」
たつや

「そうなんだ」

（こんな奴知らないけどなあゝ）

男子生徒達

「毎日喧嘩ばっかやってたつけ族の集会もよくいったつけ俺のコー
ルうまかったんだあ」

（こうゆうやついるんだよなあペーペーだな）

男子生徒達

「たつやはしらないかあ真面目そうだもんコールってゆうのは単車
のアクセルでやるやつだ」

（知ってるよそれぐらいてかこいつら殺してえー）

男子生徒達

「たつや帰りゲーセン行こうぜ」

たつや

「いいけど不良しかいないじゃんこわいなあ」

男子生徒達

「大丈夫だって俺、結構顔きくんだぜ」

キンコーンカンコーン

男子生徒達

「じゃあ帰りな」

たつや

「じゃあね」下校時間

男子生徒達

「たつやゲーセン行くかあ」

たつや

「おう」

ゲーセン中に入ると不良がたまっていた。

震えた声で男子生徒達はゆった

「ぜ、絶対に目をあわすなよ」

たつや

「へーい」

たつやは不良達をガンミしていた。

不良達

「おい！おまえら何視てるんだ殺すぞ」

男子生徒達

「すいませんもう帰ろうぜ」

男子生徒達とたつやはゲーセンを出ようとしたら・・・

不良達

「まてよおまえらちょっとつらかせや」

男子生徒達

「い、いえもう帰りますんで」

不良達

「俺たちのゆうことが聞けないのか」

この不良達はこころへんで有名なワルだった。

たつやからしては、たいした奴等じゃなかった。

不良達はたつやに殴りかかってきた。

たつやはきれた。

たつや

「てめら殺してやるぜ」

たつやの服がやぶけて背中の堕天使が見えた。

不良達

「なんで高校生が入れ墨なんかはいつてんだよ」

たつやは不良達を半殺しにした。

たつや

「てめら爆攻天なめてるのかあーん」

不良達

「爆攻天ってゆえば中3で全国制覇した。あ！たしか背中堕天使は

いつてるって聞いた事がある」不良達

「ややばいよにげるぞ」

不良達はにげていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0119b/>

我天下無敵の聖飛天

2010年11月13日03時35分発行